

教えて! 市立病院



【今月のドクター】

整形外科部長
かわし ひろゆき
川路 博之 医師

厚生労働省の調査によると、要介護の原因の12.5%が骨折・転倒だったと報告されています。高齢者に多い骨折の一つに大腿骨近位部骨折があります。太ももの骨（大腿骨）が股関節の部分で折れる骨折です。高齢者の4人に1人といわれている骨粗鬆症が基盤にあり、つまりきや転倒により発生します。治療法は全

〈第107回〉

だいたいこつきん い ぶ こっせつ

大腿骨近位部骨折って、ご存知ですか？

■問合せ／市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450

身状態が許せば、ほとんどの場合、手術です。骨折部がずれないように金属で固定する骨折観血の手術や、^{こっせつかんけつてきしゅじゅつ}大腿骨頭（大腿骨の先端部分）を人^{だいたいこつどう}工の頭に換える人工骨頭挿入術が行われます。手術から退院までには、通常2～3か月かかります。日常生活動作や歩行能力が低下することが多く、さらには、死に至る場合もあります。死亡率は入院中で2～3%、1年以内で10%程度（つまり10人に1人）と報告されています。また、反対側の骨折を生じるリスクが高いことも分かっています。

山形県内での発生数は1996年には665人でしたが、2006年

1,169人、2016年1,728人と、20年間で約2.6倍増加しました。原因は9割が転倒、受傷場所は8割が屋内でした。予防がとても大切です。骨粗鬆症に対する適切な治療を受け、バランスのとれた生活を心がけましょう。適度な日光浴も効果的です。転倒が主原因ですので、その予防として、スクワット、かかと上げといった下半身の筋肉を維持する体操（支えが必要な場合は、椅子の背もたれや壁に手を添えて転ばないように注意）や、屋内の環境整備（電気コードの整理、カーペットの縁の歪みをなくす、手すりの設置など）が大切です。